

令和5年度第1回小合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議報告

日時：令和5年6月7日(火) 10:00～11:30

会場：小須戸地区ふれあい会館

【出席者】

金津コミ協：青木会長、小須戸コミ協：五十嵐福祉部員、山の手地区社協：栗山副会長、小合民児協：古田会長

金津民児協：茨木会長、小須戸民児協：米田会長、老人クラブ 大鹿・ときわ会：吉田会長、長寿楽：上田氏

こすどプラチナネットワーク：大貫代表、地域包括支援センターこすど：保莉センター長

秋葉区健康福祉課高齢介護担当：明間主査

秋葉区社協：横山事務局長補佐(事務局)、藤田地区担当、小林 SC (1層)、吉岡 SC

【令和5年度の動き】

令和5年度地域福祉活動計画（地区別計画）と支え合いのしくみづくりについて

- ・地区別計画は地区ごとに地域コミ協（地区社協）と相談し、地域福祉懇談会を年2回（1回目：今年度の取り組みの打ち合わせ、2回目：振り返り）開催し、様々な団体や関係機関と連携して地域課題や地域福祉活動に取り組む。
- ・支え合いのしくみづくりについては、圏域の課題について検討し、地区や圏域の地域福祉活動に活かすなど地区別計画と一体となった活動を進めることで、よりよい地域づくりにつなげていく。

*テーマ①支え合いのしくみづくりの周知について

課題と期待	アイデア
<p><input type="checkbox"/>伝え方</p> <ul style="list-style-type: none">・支え合いのしくみづくりを説明すると「普段からしている、何が違うのか」と言われ、説明に困る。・支え合いのしくみづくりをどう伝えたらいいかわからない。	<p><input type="checkbox"/>わかりやすい言葉や説明が必要</p> <ul style="list-style-type: none">・支え合いや見守りについて事例を入れながらわかりやすく説明する。・地域によって、「助け合い」「支え合い」「お互いさま」といった言葉を選ぶことでわかりやすくなるのではないか。

課題と期待	アイデア
<p>□地域への認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「支え合いのしくみづくり」という言葉自体が地域に伝わっていない、知らない。 ・若者は支え合いに興味がないように感じる。 ・大きい自治会では、班でまた違ってくるので、隅々まで周知するのは難しい。 ・「支え合いのしくみづくり」は、今までしてきた活動の延長であると思う。地元の活動を見つめなおしたらどうか。 ・地域活動には、地域ごとにそれぞれやり方があり、まずは自治会の活動に目を向けるべきである。 <p>□地域活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ地区内でも温度差があるように感じる。 ・見守り活動は大きな変化は見えないが確実に浸透はしてきていると感じる。 ・支え合いの活動は主に高齢者が担っているが、若い人にも入ってもらいたい。 ・メールや電話などで便利なツールが増えているため、顔を合わせて話す機会が失われ、便利になった一方、人付き合いが希薄化している。 ・地域柄、自営業(園芸)で働いている人が多く、生涯現役で働いている高齢者が多い。 ・イベントを企画するが、元気で仕事をしている人が多く、参加が難しい。 ・年を取ると昔は楽しかった旅行も億劫に感じる人が多い。 ・支え合いは肉体的なことは勿論だが、精神的な支え合いは生きがいにつながる。 ・助けてほしいと声をあげれない人もいる。声なき声を拾うために何かできないだろうか。 ・自治会長が1年で交代するため、つながることが難しく、何をすればいいのかわからなくなっていると思う。 	<p>□情報を得られるしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に関わってもらうことで理解が広まる。 ・班ごとに(小さな単位で)支え合いを広げていく。 <p>□自治会への広め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域で取り組んでいるいいところ(事例)をまとめて、広める。 ・自治会の中で若い人から参加してもらう方法の検討。 <p>□助けてといえる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけは、精神的な支え合いとなる。 ・高齢者世帯に訪問するなど、直接声を聞くことが大事である。 ・今までやってきたことを見つめ直す。 ・定期的な情報交換の場、顔を合わせる場(自治会・サロン等) <p>□自治会が大切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会・班ごとの情報交換の場。 ・自治会ごとの取り組み。

*テーマ②圏域全体での取り組みについて

課題と期待	アイデア
<p>□地域の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支え合いが地域に浸透していない状況では、圏域全体で取り組むことは難しい。 ・ 各地域、各地区で状況が違っている。 ・ 支え合いについて時間や手間をかけてきて、少しずつ支え合いは進んできていると感じる。 <p>□交流・情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つながりのある地域間の交流やサロンの交流をすることで、色々な話が出てくるのではないかな。 ・ 各地区内で状況が違うが、全体で情報共有していくことも大事である。 <p>□周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支え合いのしくみづくり会議に一般の人にも参加してもらい、地域活動に興味や理解を持ってもらえるようなオープン会議を開催したらどうか。 ・ 知ることが第一であり、自治会の総会等で支え合いのしくみづくりの説明をするなど、様々な場面で話をする機会があるとよい。 ・ 支え合いは難しいことではないと理解してもらおう。 ・ 構成員はそれぞれ団体に属しているので、まずはその団体に伝えていくことも大切ではないかな。 <p>□活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議だけでなく、まずはやってみることも大切である。地域に入ってやってみることで輪が広がっていく。 ・ 自治会・町内会との連携は必要であり、地区社協と一緒に進めていけるとよい。 	<p>□取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは各地区で取り組んでから全体に広める。 <p>□交流会・情報交換会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロンの情報交換。 ・ 各地区の情報交換。 <p>→情報共有をして支え合いを根付かせる。</p> <p>□説明方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の総会等で説明する。 ・ 構成員のメンバーが所属する団体から広めていく。 <p>□まずはやってみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは出来ることからやってみることで先に進んでいく。

課題と期待	アイデア
<ul style="list-style-type: none">• 支え合いのしくみづくりを地域で行っていくことは大切だけど、自分でできること、家族でできることも考えてもらうことが大切である。• しきみづくりが大切となるため、継続するために時間と手間がかかる。• だんだん・嶋岡では、スタッフで検討し、たくさんの方に関わってもらい、夏休みに子どもの居場所を開設する。	